

長堀が関わる演劇の現場では、一度みんなに目を通してもらっておこうと思って書きます。何でこんなことをしなくってはいけないのか？って疑問に思った時に、ここにフィードバックできれば答えが見つかるように、といった気持ちで。

新型コロナ、もしくは新型コロナへの対策というものを、2つの意味で甘く見ない、ということが重要だと思う、という話。

1つには、感染した場合に重症化しない可能性がゼロではなく、万が一軽傷でも、つらい後遺症が長く残る場合がある、ということ。重症化も後遺症も、もしかしたらコロナの感染でその後の一生が変わってしまうかも知れません。新型コロナが風邪のようなもの、あるいは、インフルエンザのようなもの、という言い方は、僕の私見ですが、ある意味では間違いではありません。風邪とは、ほとんどの場合コロナウィルスのことですし、症状も似ています。ただ、新型コロナにかかって症状が出た場合のリスクは、他とは比べ物にならないほど高いです。だから、それが理由で、感染しない、ということが重要で、その為に予防を考えた稽古や公演、のみならず、普段の生活が重要だと考えています。防衛という観点から、生活のすべての時間で、ぜひ手を尽くして下さい。これは、自分の生命の問題として。

2020年夏現在、新型コロナをはじめ、コロナウィルスへの薬というものは存在していません。風邪薬として売られているものも、医者が処方してくれたものも、風邪を治す効果はなく、新型も旧型もコロナの関しては「治す薬」などというものは今まで一度も存在したことがありません。今ある薬は、すべて対処療法、つまり症状を抑える為だけの薬です。風邪のウィルスそのもの、つまりコロナウィルスをやっつけるものは開発されてない、ということに改めて書いておきます。今まで、人間の手では治したことがないウィルスがコロナウィルスです。今まで治ったすべての風邪は、実は自然治癒なんです。実は自分で治癒力で勝手に治っただけ。今、新型ウィルスにおいても、治療の柱は対処療法だけです。あとは、治癒力を高めて、勝手に治るのを期待するしかないのです、この病気は。各国が今薬の開発に必死ですね。出来るでしょうか？ そこが、インフルエンザとは違います。インフルエンザには、幾つか具体的にそのウィルスそのものに効く薬、というものが有りますから。ワクチンもありますし。

余談ですが、唯一、葛根湯という漢方薬だけは、対処療法ではなく、風邪そのものを治す目的の薬です。その治す方法とは、体温を高くして、体が持っている自然治癒力を高めることで体に入ってきた悪いウィルスをやっつける、ということなので、コロナに効くということではありませんが、自然治癒力が高くて損はないので、今の新型コロナの流行に際し、ちょっとでも体調の変化を感じたら、とりあえず葛根湯を飲む、ということを実は長堀はずっと実践しています。新型、は分かりませんが、今では普通の風邪すら引き難い時代ですから、悪いことはないだろうと思って。余談でした。

まとめです。

① 新型コロナとは、治す薬がなく、重症化したら死ぬ可能性もあるくらい重くなり、軽症者でも長く後遺症に苦しめられる、と認識しておきましょう。なんで自分は感染予防なんてしなくっていけないのか、それが1番目の理由です。コロナは治らない、苦しむ、死ぬ可能性もある、です。

...

また、万が一自分が感染していて、もしもそれが無症状でも、その場合には「感染を広げない」対策が必要です。つまり、上記したような症状が出てしまう方を出してしまう「発信源」に自分にならない為の対策です。自分が無事でも、誰か他の方が病気で苦しむ「原因に自分なる」なんて嫌ですもんね。いや、性格的に嫌だと思えない方でも、社会人として、一人の人間として、自分からは感染させない、という行動は行えるのが理想です。想像して下さい。自分が感染源で家族や友人が発症して苦しんだりしたら、ある意味自分が発症して苦しむよりも苦しいかも。

そこでまず「マスク」です。ちなみに、マスクは、自分が感染しない為の効果としては薄いことが分かっています。しないよりはマシですが、「ソーシャルディスタンス」、「手洗い」、「殺菌」、部屋の「換気」などと併せて行って、それでなんとか感染予防になっている、と思っていいでしょう。しかし、マスクは自分が万が一感染していても、周りの人に感染させない効果が証明されています。感染の原因としては飛沫感染が主ではありますので、マスク、大事です。それで、だって自分がかからないもん、かかってもいいもんって理由からマスクしない方がいますが、それが間違いであることが分かりますね。それは、自分ではなく、結果的には他人がどうなってもいい、って行動していることになるのです。マスクは、自分から誰かに感染させない、そのことの為にするのです。だから、マスクをして生活している方を見て、あたためて感謝を感じてもいいかも知れない。その人は、誰か他人の為になることを行っているんですから。そして、自分がマスクをした時には自分を褒めましょう。それは、社会への貢献につながっています。

新型コロナの特徴として、重症リスク、死亡リスクに加え重要なのが、「無症状者の多さ+簡単に他の人にうつる」ということがあげられます。もしかしたら、社会にとってはそのことが最も危険な新型コロナの特徴です。つまり、「感染のしやすい」ということで、パンデミック（感染爆発）が起こりやすい、ということですから。実は、感染者全体での重傷者、亡くなる方が爆発的に多い病気、ということではなく、感染がどんどん広がるから結果的に重傷者や亡くなる方が増える、ということなんです。それは、極端な話、無自覚のまま誰かを死なせてしまう可能性がゼロじゃない、という気持ちを、心の中のバランスとしてはほんのちょっとだけでいいので、持っていたいですね。それが危機感につながりますから。

まとめです。

② なんで自分は感染予防なんてしなくってはいけないのか、そこまで注意しなくってはいけないのか、手を緩められないのか、その理由の2つ目は、新型コロナの感染のしやすさ、感染しても無症状のまま他の人に感染させてしまう可能性が高く、結果的に、パンデミックが起こりやすいから、です。それには危機感を持ちましょう。マスクはその為、です。

...

ただし、注意点、新型コロナへの対策には、正直、個人では限界があります。すぐく対策して生活していた人が感染した、という例はこれまでもたくさんあります。それは、げんなりさせることで、対策への気持ちを下げますが、それくらい感染しやすく、やってもやっても感染リスクはゼロには出来ない、そういう病気だからなんです。本当、嫌な病気。だから、注意したいのは、感染者への差別的な発言、態度はやめましょう、ということ。ここまで社会が頑張ってることですから、かかるのはもう運が悪かったと言うしかないのです。そういう

感染者がほとんど。本人も、病気そのもの、だけでなく、かかってしまったことにすごく落ち込んでしまっていると思います。むしろ、明日は我が身と思って、その人を励ますくらいの対応を取るのが理想だと思います。もちろん、隔離などの具体的な対応はちゃんとやった上で、です。敵は病気、かかった人じゃない。

最初に、2つの意味で甘く見ない、と書き始めましたが、これも加えて3つにしていいいですか、まとめの③、

③ 万が一感染した方がいたらその人の立場から考えて、その方の心に寄り添う、ということも大事。もしかしたら、この社会が良い社会でいられる為には、そういう精神的なことが一番大事なことも知れませんが、誰も病気にかかりたくてかかる方はいません。この病気の恐ろしさとは精神をも蝕む点もある、ということも忘れないでいましょう。本当は自己責任を問う場面ではない時には、決して自己責任を問わない、それが重要です。

...

余談、でもありませんが、批判ではなく現状認識として。

大変残念なことに、治療薬のない新型コロナの感染を食い止める手段は今のところ1つしかありません。常識レベルなのでわざわざ書きませんが、それは、個人では実現できない規模の大きなもので、国や自治体がやるしかないので、どのような原因からであれ、日本のPCR検査率がアフリカの発展途上国並みの世界166位って事実から、自分たちが暮らすこの国、この社会では実現されないのに覚悟を持って生きるしかないようです。もうちょっとマシだと思っていた日本という国、この社会にはその能力がなく、他の先進国の例も参考にはできません。だって先進国じゃなくなってしまったから。指をくわえて、羨ましいなあ、って思うしかないようです。これはもう、遅れた国に生まれてしまったことを恨むしかない。

ですが、世の中を見ていて思うのですが、個人個人が自分の為、家族や友人の為、社会の為に頑張る能力は高いと思いますが、どうでしょうか。みんな頑張っている。それは誇ってもいいレベルでは？ 国がこんなに無策で、何かやれば愚策なのに、保障すらしてもらえないのに一人一人が頑張っているお陰で、この社会は不思議なくらい意外と保っています。これから続く未来、数カ月、数年、まだまだ油断も出来ませんし、時には心も折れそうですが、当面の作戦として、今、個人一人一人が頑張る、それは何とか続けてやって行くしかないようです。ため息も出ますが、本当、気合を入れ直して。自分と家族と友達のため、と思って。手を取り合って協力して。あとは、次、自分が参加できる選挙があったら、社会を救ってくれる良いリーダーを選びたいですね。この件では、本当、いくらなんでもリーダーが酷かったです。

ここまで、具体的には演劇の話をしていませんが、これから演劇を行う上で大切な柱になる話を書こうと思って書いてきました。僕が係わる現場では共有したい話として。どうぞよろしくお願いたします。

劇団主宰・プロデューサー・演出家・劇作家 長堀博士